

「知的障害のある児童生徒への自立活動の 指導の充実」

～自立活動フローシートを用いた目標設定及び
授業実践の充実～



千葉県立八千代特別支援学校 電話 047-450-6321
FAX 047-450-1459

研究のポイント

- ・自立活動フローシートの作成・個別の指導計画への位置づけ
(実態把握、指導目標、指導内容の明確化)
- ・教育課程編成の見直しからの日課表への位置づけ
- ・教職員の意識の変容と専門性の向上

■学校の概要 <https://www.chiba-c.ed.jp/yachiyo-sh/>

本校は、千葉県北西部の八千代市に位置し、知的障害を有する児童生徒（小学部・中学部・高等部）が学ぶ特別支援学校である。本校の学校教育目標は「学び」「気づき」「つながる」であり、学びの継続性、子どもの主体性、そして地域とのつながりを大切にしながら、188名の児童生徒が元気に学校生活を送っている。

■研究課題

学習指導要領の趣旨を踏まえ、知的に障害のある児童生徒の自立活動における指導の在り方について検討するとともに、知的特別支援学校における自立活動についての教育課程編成について実践研究を行う。

■研究の目的と方法

学習指導要領に基づき、知的に障害のある児童生徒の実態に応じた指導方法や指導体制の工夫改善を通じて、個に応じた指導を推進することが求められている。

本校では、特別支援教育の基盤となる自立活動について、教育課程の見直しや自立活動の指導についての実践研究を通じて、一人一人に応じた目標や課題を設定し、指導の充実を図ることを目的に研究を行った。研究の方法は以下の3点である。

- ① 「自立活動フローシート」を個別の指導計画に位置付けて児童生徒及び保護者と目標や課題を共有。
- ② フローシートを用いてPDCAサイクルを活用した授業実践、評価、授業改善からみる児童生徒の経過や変容による検証
- ③ 事例研究による授業実践（指導形態、指導内容、指導方法）の検証
- ④ 質問紙調査による教職員の意識の変容や専門性の向上についての検証

研修や自立活動フローシートの作成、授業実践を通じて、教職員が自立活動の専門性を高めるとともに、児童生徒の実態に即した自立活動の指導の在り方や効果的な指導内容や指導方法等を検証していく。

■研究概要

<研究の成果>

(1) 全職員による客観的な実態把握に基づく「自立活動フローシート」の作成及び個別の指導計画への位置づけ

昨年度、本校独自の「自立活動フローシート」を試案してその妥当性について検討し、今年度より全児童生徒に対して、個別の指導計画に位置付けることとした。

実態把握には情報収集法に加え、アセスメント検査（MEPA I・II、NCプログラム、太田ステージ、BWAP II等）を取り入れることで、より客観的な実態把握を行い、分析結果から目標や主となる課題、強みを明らかにし、指導目標、指導内容を設定することとした。また、前期にはフローシート作成における研修等を行い、後期から個別の指導計画に位置付けて作成したことで、児童生徒の実態や目標、課題等を保護者と共有することができた。

(2) 自立活動フローシートを用いた授業実践（適切な目標設定、指導内容、指導形態）及び全校研究会の実施

今年度より、日課表上に「時間における指導」を位置付け、自立活動フローシートを用いた授業実践に取り組んだ。作成上でアセスメント等の実態分析を行うことで、個に応じた目標設定や指導内容に根拠を持たせることができた。

全校研究会では学部毎に授業展開を行い、目標設定、指導内容、指導形態等についての協議を行った。どの学部も的確なアセスメントが適切な目標設定につながったことを確認した。指導内容については教師自身が児童生徒の個々のねらいや課題を明確に意識して授業を行うこと、各教科と自立活動の指導や目標設定の違いを意識しながら授業を行うことの重要性を確認した。そして、児童生徒自身が自分の目標や課題を意識し、授業での成功体験や達成感が成長につながっていくこと等も確認した。指導形態については、個別での対応を基本とするが実態把握に基づき同じ課題や目標のある生徒同士を集団で指導することで、生徒同士が学び合うなどの教育的効果が見られ、集団の中で個別に対応することの有効性を確認した。

(3) 教職員の意識の変容と専門性の向上について

10月の質問紙調査では、4月に比べ自立活動への専門性が高まったと答えた教職員が8割を超えた。指導の充実のためには、何よりも教職員の専門性の向上が必要不可欠であることを全職員で確認した。

<今後の課題と次年度へ向けて>

授業実践は今年度から取り組み、充実した指導が行われているとはまだ言い難く、依然としてシートの作成手順や分析方法に難しさを感じている教職員も多い。しかし、教職員が自立活動について改めて学び、フローシートの作成やよりよい授業を目指して実践を重ねたことは、本校における自立活動の土台を築くきっかけとなり貴重な財産となった。今年度作成したフローシートや教材教具シート、授業構成等のデータベースを次年度以降もさらに蓄積し連動させることが、児童生徒の学びの保証となり、個に応じた教育課題の設定につながると考える。同時に、教職員が日々研鑽を積み、児童生徒に寄り添った指導・支援を行うことが今後、本校をはじめ、知的障害特別支援学校における自立活動の指導の充実につながっていくものと考えている。

関連資料

○知的障害特別支援学校の自立活動の指導（ジアース教育新社）

○実践みんなの特別支援教育 自立活動の誌上研修（Gakken2022）